

光一中だより

教育目標

- 自主的に学び、考え、実行する人
- 心豊かで、ともに助け合う人
- 健康で、勤労を愛する人



練馬区立光が丘第一中学校
校長 山谷 安雄
令和4年度 第7号
令和4年 11月 10日

合唱コンクールを終えて

校長 山谷 安雄

真夏の暑さから一転して、秋らしい日が続いています。先日は、多くの皆様のご協力で3年ぶりの合唱コンクールを実施することができました。1学期の運動会の実施と同様に、生徒たちは少しずつ行事に取り組むことの楽しさを感じるようになりました。そのような中、3年生は2年間歌を歌うことができなかつたにもかかわらずすばらしい合唱を披露しました。1年生と2年生は今年の3年生の歌声を聞いてそれ以上の歌声になるよう今から自覚をもって、歌ってもらいたいです。来年は課題曲と自由曲の2曲を是非披露してもらいたいです。

さて、合唱についてこんな話を十年以上前に聞いたことがあります。東北地方のある町の話です。地域には、反社会的な人がいて、中学生もそのような人達に引きずり込まれる生徒が少なからずいました。学校は落ち着かない状態で、先輩から後輩へ悪い伝統も受け継がれてしまっていました。そのような環境のなかで、なんとかしようと思いついたのが合唱でした。中学生を合唱で良い方向に向けようということに町全体で取り組みました。なかなか上手く運びませんでした。数年の後、町全体の中学校が変わったそうです。歌う喜び、達成感など歌うなかで生徒たちは得ることができたようです。生徒たちは何かに夢中になりたいと考えていたのだと思います。そして、生徒たちが変わっていき、地域も少しずつ変わっていきました。なによりも、合唱の全国大会に県を代表してその町から毎年のように出場するようになりました。そして、全国で最優秀賞を取るようになるとさらに誇りをもって地域全体で歌を歌うようになりました。その後は、よく聞く話ですが、合唱以外の運動部であったり勉強であったりも成果をあげていったようです。

合唱が学校をよくしたというよりも、何かに夢中になれたことが、自分の可能性を延ばすことになったということです。何も夢中になることがないと、「小人閑居して不善をなす。」(普通の人は暇していると良くないことする。)という「礼記-大学」をふと思い出します。自分のプラスになり夢中になれることを自分で探せると人生が変わるのですが、これがなかなか難しいです。今回は、クラス合唱でみんなの力があつたから達成できました。自分だけではなく周りの人の存在を意識して学級や学校でいろいろ挑戦していつてもらいたいです。何か今までと変わってくるかもしれません。